

ガンバ大阪と大阪青山大学連携プロジェクトの実施報告

藤井嵩子

大阪青山大学健康科学部健康栄養学科

Collaborative Project between Gamba Osaka and Osaka Aoyama University

Takako FUJII

Faculty of Health Science, Osaka Aoyama University

Summary: Osaka Aoyama University has an official partner contract with the professional soccer team Gamba Osaka but no report on the collaborative project has been published since 2017. This paper describes the project for this year.

Keywords: Collaborative project, Event, Report
連携プロジェクト、イベント、報告

I. はじめに

大阪青山学園は、サッカーJリーグチームのガンバ大阪とオフィシャルパートナー契約を結んでいる。連携しての取り組みは、研究グループによる選手の栄養・食生活調査、身体調査を始め、コーチやスタッフを招いての講演会の実施、各種イベントでの食事相談・健康チェックなど多岐にわたって行われてきた。特に、2011年度から2017年度の7年間は健康栄養学部健康栄養学科の学生による「ガンバ大阪応援弁当プロジェクト」を年1回のペースで実施していた。このプロジェクトの大きな目的は、ただ美味しさや楽しさ、営利を目的とするのではなく、給食経営管理論、食品衛生学、栄養教育論、食品学などで学習した「食のマネジメント」の実践として活用し、本学健康栄養学科の学生が管理栄養士としての「食のあり方」や「食の倫理」などを考える場としていると報告されている¹⁾。しかし、2017年度に指導教員が退職したことにより、このプロジェクトは終了した。その後も、「弁当事業」から内容を変えてブース出展が行われてきた。本稿では、本年度に行なったブース出展について報告する。

2. ブース出展の目的

近年、大学教育は改革が進められており²⁾、その特徴の一つに、教員が一方向的に何かを教えるのではな

く、学生が、何を学び成長を遂げるかといった「学生の学びと成長 (student learning and development)」に力点が置かれていることが挙げられる³⁾。つまり、これまでの「知識の習得」のみでなく「知識を活用する能力 (ジェネリック・スキル; generic skills) の育成」が求められている。ジェネリック・スキルの育成には、学生主体によるイベントの企画・立案の実践 (サービス・ラーニング) が効果的であり、実践の成果として「①専門教育を通して獲得した専門的な知識・技能の現実社会で実際に活用できる知識・技能への変化、②将来の職業について考える機会の付与、③自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上」などが挙げられている⁴⁾。

そこで、大阪青山大学健康栄養学部健康栄養学科健康スポーツ栄養コースではガンバ大阪との連携プロジェクトのブース出展 (イベント) を通して、学生のジェネリック・スキルの育成を図ることを目的とした。具体的には、管理栄養士としてのマネジメント力や職業意識の開花に繋げることである。

3. イベントの位置づけ

本稿で行ったイベントはガンバ大阪との連携プロジェクトであり、地域連携活動の一環である。指導は、著者である大阪青山大学健康栄養学部健康栄養学科の教員に一任された。そこで、イベントは健康栄養学部

健康栄養学科の特徴の一つであるコース特別活動に組み込んだ。コースは医療栄養コース、食育コース、フードマネージメントコース、健康スポーツ栄養コースがあり、イベントは健康スポーツ栄養コースで実施した。コース特別活動は選択科目であり、2年生は通年、3年生は前期のみ開講している。2年生の前期にコースの説明が行われ、後期より興味のあるコースにそれぞれ分かれて活動する。

健康スポーツ栄養コースでは前述した教員の指導のもと、イベントの企画・立案・実践を通して、社会に出てから必要な企画力・実践力などのスキルを身につけることも目的としている。

4. 実施報告

イベントまでの流れを図1に示した。

本年度実施した8月のイベント内容を図2、12月のイベント内容を図3に示した。

イベントに関与する学生は授業の一環で集まり、自分たちで一からイベントを企画・立案・実施した経験が少ない。8月は3年生7名と教員1名で実施した。教員がテーマを考え、学生はそれに沿って原案を作成

した。その後、提供メニューのレシピを作成し、よりおいしく提供できるように何度も試作を重ねた。また、看板やポップなども作成した。最初は全員で同じ作業を行っていたが、作業が進むにつれて学生たちで役割分担し、各々空き時間を見つけて取り組んだ。当日は会場設営や呼び込みを行い、料理は作った分は全て提供することができた。測定にも列ができて盛況であった。測定は機器が暑さで調子が悪くなるトラブルが生じたが、測定人数を制限するなどの対応を行い、無事に終えることができた。

12月は2年生7名と教員1名で実施した。2年生は授業が過密していることもあり、全員が集まって作業を行うことが難しいと考え、最初の段階で役割分担をした。今回は学生がテーマを考えて原案を作成した。各々自分の担当作業を進めた。作業のイメージがつかず、作業が進まない学生は教員の指示を仰ぎつつ進めた。提供メニューのレシピがなかなか決まらず苦戦したが、前日まで粘り強く試作を続けて仕上げることができた。看板やポップなどは3年生の作成したものを参考に作成していった。当日は、8月同様に、会場設営から呼び込み、料理の提供や測定を行った。料理は会場で仕上げ（温め）を行い提供した。ポタージュの

①コース選択

2年生後期、3年生前期に希望者のみコース特別活動を選択。
健康スポーツ栄養コースを選択した学生がイベントに参加する。

②テーマ、コンセプトの立案

テーマに沿って栄養に関する事で原案を作成。

③メニュー（レシピ）の立案、測定記録用紙の作成

テーマやコンセプトに沿ったメニュー（レシピ）を立案する。

測定結果を貼る記録用紙を作成する。

（測定後に管理栄養士（教員）が簡単に説明を行うが、より詳しく書いたものを準備）

④試作・試食

試作・試食を繰り返してオリジナルのレシピを作る。

⑤タイトルの決定、看板・ポップの作成

レシピが完成したらタイトルを決め、看板やポップを作成する。

レシピを書いた配布物を準備する。

アンケート用紙を作成する。

⑥提供

会場設営を行う。

料理の提供、測定。

図1 イベントまでの流れ

【第1回 G 大阪×大阪青山大学 連携プロジェクト】

日 程： 2021年8月6日（金）
 ガンバ大阪 vs 横浜 FM 戦 19時キックオフ
 会 場：パナソニックスタジアム G パーク内特設テント
 テー マ：カルシウムを摂るきっかけをつくる
 実施内容：骨密度測定、カルシウムゼリーの販売
 提 供 食：カルシウムゼリー 240個（ソース8種類、各30個）
 価 格：100円/個
 測 定：骨密度測定（無料）
 参加人数：健康栄養学科7名（3年生）

前日の流れ
 給食経営管理室の掃除
 食材の仕入れ

当日の流れ

9：00 調理開始
 14：00 調理終了後、荷造り
 14：30 搬送（大学出発）
 15：00 会場に到着後、会場設営
 16：00 開店
 カルシウムゼリーの販売
 骨密度の測定
 18：30 閉店

図2 2021年8月実施内容

濃度が予定と違い、学生の理想通りとはいかずに落ち込んでいたが、アンケートには美味しいというコメントをたくさん頂けた。一方、測定を行う人はまばらであった。測定項目に体重があったことが避けられた原因の一つかもしれない。測定者が少ないため、手の空いた学生は、ポタージュの販売を促進するための呼び込みなどを行った。

5. 今後の課題

イベントを通じ、学生たちは「学生同士の人間関係」の中で成長することが報告されている⁵⁾。本年度のイベントは2回とも参加人数は7名であった。今後、イベントの参加人数を増やしたり、学年を越えた交流を加えるなどの工夫をすることで、ジェネリック・スキルの育成効果を高めることができるだろう。そのためには、教員として学生にイベント参加の魅力などの周知を図るべきかもしれない。

また、イベントの効果として「経験を通して、学びを得ていた」ことが報告されている⁵⁾。本稿のイベントは企画から実施までの期間が2～3か月と短い。

イベントまでの期間を気にして学生が教員の指示を仰ぐのではなく、自分が何をしなければいけないのか、どのように動けばいいのかなど、学生同士がコミュニケーションをとることで解決できるような余裕のあるスケジュールにすることも選択の一つと言える。

先行報告では、このイベントによる学生への教育効果として図4のように報告している¹⁾。しかし、実際にこのような教育効果があるのかは評価されていない。イベントによる教育効果の評価は、健康栄養学科コース特別活動の教育プログラムの構築に寄与することが期待できる。イベントを継続させ、かつ、学生への教育効果を持たせるためにも、イベントに参加する目的・効果を可視化する方法を取り入れていく必要があると考える。

【第2回 G 大阪×大阪青山大学 連携プロジェクト】

日 程： 2021年12月4日（土）
ガンバ大阪 vs 湘南ベルマーレ 15時キックオフ
会 場：パナソニックスタジアム Gパーク内特設テント
テ ー マ：体を温めて元気に応援
実施内容：体組成測定、応援セット
提 供 食：ピーマンポタージュと柚子とだし香るサポートパン 200食
価 格：500円/セット
測 定：体組成測定（In body）
参加人数：健康栄養学科7名（2年生）

前日の流れ

9：00 調理開始
ポタージュを調理
ポタージュは1ℓずつ真空パック
19：30 調理終了

当日の流れ

9：30 集合、準備
10：00 搬送（大学出発）
10：30 会場に到着後、会場設営
11：00 開店
ポタージュの販売
体組成の測定
15：00 閉店

図3 2021年12月実施内容

- 1) マネジメントスキルの確保
 - I. リーダーシップとチームワークの必要性の認識
 - II. 栄養素と食事のコーディネート（献立→大量調理と調理技術）スキル
 - III. 衛生管理（HACCP）実践スキルの確保

- 2) プレゼンテーションスキル
 - I. 栄養教育の実践
 - II. 媒体の作成
 - III. 学会での発表

- 3) コミュニケーションスキルの向上
 - I. 選手とのインタビュー
 - II. 他の関係者との交渉

- 4) レポート作成能力の向上
 - I. 報告書の作成

- 5) 管理栄養士の職業意識の開花

図4 ガンバ大阪応援弁当プロジェクトの教育効果

謝辞

2021年度に大阪青山大学健康栄養学部健康栄養学科健康スポーツ栄養コースでイベントを実施した。イベントの実施にあたり協力してくださったプロジェクトリーダーの大澤教授、地域連携課の福田様をはじめ、健康栄養学科の先生方には深く感謝いたします。

要約

大阪青山大学は、サッカーJリーグチームのガンバ大阪とオフィシャルパートナー契約を結んでいる。ガンバ大阪との連携プロジェクトは2017年度を境に活動報告をしていなかった。そこで、本年度実施した、プロジェクトを報告する。

参考文献

- 1) 吉村智春・藤原政嘉. ガンバ大阪応援弁当プロジェクトの教育効果について, 大阪青山大学紀要, 10, 47-49, 2017.
- 2) 山田剛史. 大学教育の質的転換と学生エンゲージメント, 名古屋高等教育研究, 18, 155-176, 2018.
- 3) 溝上慎一、アクティブラーニングと教授学習パラダイムの変換、東信堂、2014.
- 4) 中央教育審議会. 「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」, 2002. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1287510.htm (2022年3月1日最終アクセス)
- 5) 有川かおり. 大学生の企画力・実践力を育む教育プログラムの実践と評価—導入教育段階でのイベント企画の効果と課題に関する検討—, 聖徳大学生涯学習研究所紀要 15, 55-64, 2020.